

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2024年度 助成者)

作成日 2024年8月29日

氏名 (フリガナ)	中井遥希 (ナカイハルキ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2024年8月5日 (月) ~ 8月10日 (土)
大学名	慶應義塾大学
学年	5年

この度、Hawaii Tokai International College 主催の医学部夏季集中医学英語研修プログラムに参加させていただきました。ここに簡単ではありますが、その内容についてご報告させていただきます。

今回私が本プログラムに参加した目的は、大きく二つあります。

一つ目は、将来アメリカを含む海外で臨床医として働く夢があり、アメリカの医療現場がどのようなものか、また、アメリカで働く上で必要とされるスキルについて学びたいという思いがあったからです。実際に5日間の研修を通じて、将来アメリカでレジデンシープログラムに参加するために必要なスキルを知ることができました。また、現在アメリカで臨床医として活躍されている先生方と直接交流する機会を得たことで、将来のビジョンがより明確になったと感じています。特にプログラム内では、アメリカでレジデントとして働く上で case presentation スキルが重要であることが強調されており、アメリカで実際に働いている医師の前で何度も case presentation を行い、フィードバックをいただきました。いただいたフィードバックを基に繰り返し練習することで、自分の case presentation スキルが日々向上していることを実感しました。

二つ目の目的は、他大学の医学生や医師と交流し、自分の視野を広げたかったからです。本プログラムでは、日本全国の医学部生が集まり、さらにハワイ大学の医学生とも交流できることが私にとって非常に魅力的でした。普段の生活の中で、医学部というのは非常に結束力が強く、ある意味で閉鎖的な空間だと感じていました。そのため、このプログラムを通じて、同じ志を持つ全国の医学生や海外の医学生と交流できたことは、非常に貴重な体験となりました。ハワイで出会った全国の医学生たちは、多様なバックグラウンドや夢を持っており、それぞれの話を聞くことが非常に刺激的でした。また、ハワイで活躍されている多くの医師の先生方とお話する機会もあり、実際に日本からアメリカへ渡り、現役の臨床医として働いている先生方の経験談を伺うことで、私の夢がより現実味を帯び、将来の選択肢について多くのヒントを得ることができました。さらに、現地のハワイ大学の医学生との交流も非常に刺激的でした。ハワイ大学の医学生は、日本とは異なる教育システムを経て医学部に進学しており、医学教育の方法も日本とは全く異なるものでした。特に、ハワイ大学の教育カリキュラムで重要視されている Problem Based Learning (PBL) という能動的な授業スタイルを実際に体験することで、学びにおけるその重要性を改めて認識させられました。

最後になりましたが、本研修プログラムの開催に際し、多大なご尽力をいただいた医学医療交流財団の皆様、Hawaii Tokai International College の方々、ご指導いただいた先生方、そして JABSOM の学生の皆様に心より感謝申し上げます。この研修で得た貴重な経験と新たな仲間を大切に、今後も立派な医師となるよう努力してまいります。